

令和5年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金
(新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業)
分担研究報告書

薬剤耐性 (AMR) アクションプラン 2023-2027 年の実行における課題解決のための研究
(分担課題名) ワンヘルスアプローチおよび国際協力の推進に係る研究

研究分担者

藤友結実子 国立国際医療研究センター病院AMR臨床リファレンスセンター 情報・教育支援室長

研究協力者

研究要旨

アジア太平洋地域の各国で、ワンヘルスおよび国際協力の観点から薬剤耐性 (AMR) 対策の課題を「薬剤耐性 (AMR) ワンヘルス東京会議」を通じて明らかにし、今後の AMR 対策の研究および事業に繋げる。

A. 研究目的：

アクションプランに記載されている「薬剤耐性 (AMR) ワンヘルス東京会議 (Tokyo AMR One-Health Conference)」の年次開催の継続により、アジア諸国及び国際機関の関係者間で情報を共有し、各国の薬剤耐性 (AMR) 対策の推進をどのように進めるか、ワンヘルスおよび国際協力の観点から、今後我が国が実施・支援すべき AMR 対策を明らかにし、今後の AMR 対策の研究および事業に繋げる。

B. 研究方法：

ワンヘルスおよび国際協力の観点で、薬剤耐性 (AMR) ワンヘルス東京会議 (Tokyo AMR One-Health Conference) を、AMR 対策関係者及び専門家と開催し、以下の項目を議論し報告書を作成する。

- ① サーベイランスシステムと検査機関ネ

ットワーク

- ② 医療マネジメント
③ 抗微生物剤のアクセスと規制
④ 研究開発

(倫理面への配慮)

所属する研究機関で定めた倫理規定等を遵守する。なお当該研究では個人に関わる情報を取り扱わず、人権擁護上の課題や研究対象者への不利益は発生しない

C. 研究結果：

会議に先立ち、厚生労働省、AMR 研究センター、AMR 臨床リファレンスセンターにて、アジア各国の薬剤耐性アクションプランの推進と国際協力を実施する目的に沿った会議アジェンダ (案) を作成した (参考資料 1)。2024 年 2 月 28 日、AMR ワンヘルス東京会議が国際連合食糧農業機関 (FAO)、国際連合環境計画 (UNEP)、世界保健機関 (WHO) 南東ア

ジア（SEARO）および西太平洋地域事務局（WPRO）、国際獣疫事務局（WOAH）の支援のもと、オンラインで開催された。主にアジア太平洋地域の23か国から、保健省、農水省、環境省などの事務官、研究者、医療関係者、関係機関のAMR担当者など、120名が参加した。

各組織から現状報告後、4つのワーキンググループを作成し議論した。

① サーベイランスシステムと検査機関ネットワーク

サイトやセミナー、トレーニングコースを利用したASIARS-Netの利用拡大、フィードバックレポートやカスタマイズによるASIARS-Netの機能向上、三輪車サーベイランスプロジェクトが実施された。

② 医療管理

リスク評価に関する方法論、AMRアウトブレイク対応のネットワーク構築を目指し、ガイダンス文書の出版やワークショップがカンボジア（2023年2月）およびマレーシア（2023年9月）で開催された。

③ 抗微生物剤のアクセスと規制

アジア諸国におけるAMR対策を推進する有用なツールとして「抗菌薬適正使用支援マニュアル」が紹介され、ベトナム語に翻訳された。アジア太平洋地域の医療システムに合わせたASPの支援の計画として抗菌薬適正使用支援委員会の設立、問題と優先事項の特定、臨床ガイドラインと基準の開発、スタッフ教育などがあった。地域薬局における処方箋によらない抗菌薬の処方率は63.4%(95% CI 59.6-67.1)であった。

④ 研究開発

多くの政府でゲノム解読にかなりの投資

が行われていた。全ゲノム配列決定を用いてAMR病原体の国際的伝播を実証した。薬剤耐性病原体を含むゲノム配列データは、すでに様々なDNA配列データベースで共有されているが、メタデータの共有は少し難しく、簡単に共有できる普遍的な仕組みの必要性が指摘された。

上記を会議報告書(案)として取りまとめた。(参考資料2)

D. 考察:

本会議は、2016年4月に開催されたAMRに関する東京保健大臣会合で発足した「AMRに関するアジア太平洋ワンヘルス・イニシアチブ(ASPIRE)」の進捗状況がフォローアップされた。今後もASPIREのプラットフォームを通じて、ワーキンググループの参加者全員が長期的な視野に立って各国の情報共有し、それぞれの課題に共同で取り組むことでAMRの状況が国や地域レベルで着実に改善されることが期待された。

E. 結論

今後もアジア太平洋諸国のAMRの状況を国や地域レベルで着実に改善していくため、ASPIREのプラットフォームを通じて、AMR対策に関する情報を共有し、互いに支援することが必要であり、薬剤耐性(AMR)ワンヘルス東京会議を継続して実施する。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況
なし

3. その他
なし